



いまこそ教養！

「名作文庫」通信



新刊案内	P1
特集展示【不思議物語】	P2
名作文庫いざない回書	P3-P4
作家紹介【小泉 几雲】	P5-P6



令和元年 夏号



特集 不思議物語

怪奇、幻想、夢幻…。不思議な物語は現実を忘れさせ、書物の世界へと
いざなってくれます。東西の作家たちによる幽霊や神秘の世界の物語を楽し
んでみませんか。



神を見た犬

ブツァーティ／著 関口 英子／訳 光文社古典新訳文庫／刊

村はずれに住む隠修者の犬。飼い主の死後、信心薄
い村人は犬を恐れて行いを改めたかに見えたが…。
表題作「神を見た犬」の他、信仰と神を鋭く見つめ
る幻想と恐怖の短編二十二篇を収録。

最後の夢の物語

ロード・ダンセイニ／著

中野 善夫・安野 玲・吉村満美子／訳 河出文庫／刊

ラヴクラフト、稲垣足穂など幻想的な作家に影響を
与えたとされるダンセイニの後期作品集。不死鳥を
食べて不思議な力を持った男を描く中編「不死鳥を
食べた男」の他短編、掌編を多数収録。

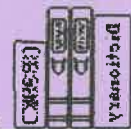
雨月物語

上田 秋成／作 長島 弘明／校注 岩波文庫／刊

平安から江戸まで、様々な時代設定のもと語られる
九つの怪談。崇徳院、西行、豊臣秀次といった歴史
上の有名人たちも登場し、妖しい世界を語りだす。
江戸期を代表する読本の傑作。

新しく買った本

こちらで紹介しているのは所蔵図書の一部です。



和解

志賀 直哉／著 新潮文庫／刊

幼い長女の死をめぐる、父親と疎遠になっていた主人公・
順吉。しかし、次女の誕生とともに、母親や祖母の心遣
いを受けて、やがて父親と和解する。幼い子の死という
悲劇を人間的洞察力と簡潔な文章でストレートに描く傑
作中編。



失われた時を求めて 13

ブルースト／作 吉川 一義／訳 岩波文庫／刊

二十世紀文学の金字塔と言われる、自伝的長編小説。
集英社版、岩波版などに続く新訳。全 14 巻とかなりの
ボリュームであり、13 巻は物語がいよいよ終局を迎え、
主人公である「私」が、作品を実際に創作することを考
え始める運びとなる。



シャーロック・ホームズの冒険 上

アーサー・コナン・ドイル／著 大久保 康雄／訳
ハヤカワ・ミステリ文庫／刊

後世のミステリ作品に多大な影響を与え、今も世界的な
人気を博する名探偵シャーロック・ホームズ。ホームズ
が唯一その英知を認めたアイリーン・アドラー登場の「ボ
ヘミア国王の醜聞」など 6 つの短編集。



西洋人の目を通して見た日本
ささやかな日常に繊細な美を見出す

日本伝統の怖い話

怪談



ラフカディオ・ハーン／著
平井 呈一／訳
岩波文庫／刊

不思議なことの物語と研究

日本古来の文献、古くからの伝承などに取材して創作された怪談集。日本の文化、伝統、習慣を世界に伝えるハーンの代表作でもある。異類婚姻譚の白眉「雪女」、滅亡した平家の怨霊が忍び寄る「耳なし芳一のはなし」など、恐ろしさの中に漂う美しさとせつなさが描かれた名作。蝶や蟻など昆虫にまつわる不思議な物語を考察する「虫の研究」も収録。

古き良き日本の心

日本の心



小泉 八雲／著
平川 祐弘／訳
講談社学術文庫／刊

障子に映る影や、小さな虫の音、神社仏閣に見える荘厳さと静けさ……。外国人である八雲は日本のありふれた日常の中にも様々な美と情緒を見出し、世界に紹介し続けた。西欧化を目指す時代の流れにはかなくも消え去ろうとする、日本の美しい情景と人々の温かく優しい心の営みを見つめ続け、日本をこよなく愛した八雲が描く古き良き日本の姿。



今号の作家紹介

日本を愛した幻想奇譚作家

小泉 八雲



小泉 八雲（こいずみ やくも）
本名（出生名）：パトリック・ラフカディオ・ハーン
（Patrick Lafcadio Hearn）
1850年6月27日 - 1904年9月26日

ギリシヤに生まれ、イギリス、アメリカを経て日本に至る。出版社の仕事で多くの国と地域を見聞し、ジャーナリストとして活躍する。
来日後は英語教師として地方の高等学校や、東京帝国大学、早稲田大学など歴任。帝大では学生の人気が高く、後任の夏目漱石は非常に苦勞したという。
小泉セツと結婚し、小泉姓とともに八雲を名乗る。諸手続きが終了した一八九六年、日本に帰化。晩年は日本研究を続け、東京都内にて生涯を終えた。

この作家の功績

当時の外国人としては極めて珍しく、帰化するほど日本を愛し、民俗学や古来の伝承の研究に打ち込んだ。日本を研究した著作は欧米で発表され、西洋に日本の文化を紹介し続けた。
「耳なし芳一のはなし」や「雪女」など私たちのよく知る物語は、八雲の代表作「怪談」に収録されている。「怪談」は妻であるセツの語りを、八雲が文章化する「再話」の傑作。著作はすべて英語で書かれ、アメリカで出版。後に日本でも翻訳され、国内外を問わず広く親しまれた。日本の古典や伝統的な物語をもとに、八雲ならではの解釈を加え美しい文章で表現されている。

文豪怪談傑作選

2008年夏より、ちくま文庫から刊行された、文豪の怪談選集。夏目漱石、室生犀星、三島由紀夫など、日本を代表する文豪による怪談・奇談を作家ごとに1冊の短編集として、まとめている。編者は今回ご紹介したいぎざない本の著者・東雅夫氏であり、2011年までに18巻が刊行されている。

文豪の名作としても、また、怪談話としても秀逸な作品集。

右の表紙：「日本幻想文学事典」 東雅夫／著 ちくま文庫／刊



名作文庫「ぎざない」現代図書

名作文庫は敷居が高い、難しそう、などなど…今まで名作文庫を読んだことのない方や、もっと名作文庫を楽しみたい方に、名作文庫に「ぎざない」現代本を紹介します。



おすすめ「ぎざない」図書

文学の極意は怪談である

東雅夫／著 筑摩書房／刊



文豪はなぜ怪談に惹かれるのか？

本書は「文豪怪談傑作選」（ちくま文庫刊）に登場する文豪の怪談執筆の背景や、影響を受けた海外文学、作家の知られざる横顔などを紹介したもの。怪談専門家である著者が川端康成、森鷗外など十六人の作家をとりあげ、怪談や心霊主義への興味や関わり方などを、独自の視点で解説する。

三島由紀夫、佐藤春夫、内田百閒などの文献を通して、怪談と文学についての考察も興味深く読める一冊。

怪談に魅せられた文豪たちの 幽玄と哀切の物語たち

【小川 未明】

「赤い蠟燭と人魚」「金の輪」など、童話作家として名高い未明は、怪談の語り手としても秀逸であった。小泉八雲、メーテルリンクなどの影響をうけつつ、独特の作風で幽玄妖美な怪異を描く。

【泉 鏡花】

文人墨客を集め、会談座談会を開催するなど、近代日本における、怪談文学の生みの親とも言うべき文豪。百物語など怪談会で披露された話をもとに、数々の妖艶な怪談話を残している。

【三島 由紀夫】

戦後の日本文学に大きな変革をもたらし、その才能は怪奇幻想文学の分野にも様々な影響を及ぼした。自らも「仲間」「切符」などの短編を書いており、中篇「英霊の聲」では降霊を描いている。



SHIMOIGUSA LIBRARY



下井草図書館には、「名作文庫」の棚があります。
一度は読んでおきたい、古今東西の名著名作を、
文庫版、新書版で集めた本棚です。



季刊名作文庫通信 3.6.9.12月発行



MASTERPIECE COLLECTION